

国語科 学習指導案

松原市立松原北小学校

1. 日 時 令和7年12月2日(火)第5時限 13:40~14:25

2. 場 所 第2学年 教室

3. 学年・組 第2学年

4. 単元名 お手紙 (使用図書・教科書:光村図書)

5. 単元の目標

- 登場人物の心情を会話文や描写から読み取る活動を通して、中心人物の心情の変化を想像しながら読み、感じたことや分かったことを共有することができる。

6. 単元で取り上げる言語活動

- ・登場人物の定義を元に、「かたつむりくん」が登場人物であるかどうかを話し合い、それを説明する。
- ・指導者が仕掛けた間違いである、登場人物の行動描写やセリフに気づき、正しい文に修正する活動を通して、心情を捉える。
- ・物語の「クライマックス」がどこにあるのかを交流することで、中心人物が変容するきっかけに気づく。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○語句のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	○場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に表現している。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	○場面の様子に着目して登場人物の行動や心情を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。

8. 指導にあたって

本学年の児童はこれまで、物語が会話文と地の文でできていることや、物語はいくつかの場面でできていることを学習してきた。会話文や描写から、中心人物の心情の変化を想像し音読で表現することも経験している。

本単元は、中心人物と中心人物に影響を与える対人物の関係がはっきりと描かれた物語である。また、登場人物も3人と少なく、会話文も誰が発した言葉なのかはっきりとしている。そのことから、中心人物の変容とそのきっかけを学習するのにふさわしい教材である。

第2次では、中心人物の変容を図解したものを元に、変容を一文にまとめる活動を行う。文章で表すことが苦手な児童にとっての一助になることが期待できる。第3次には、音読発表会を通して、登場人物の心情に入り込んでいく活動を行う。セリフや行動描写から心情を読み取り、変容を意識した読みを行うことで、自分の考えたことを表現するのに適した教材である。

9. 指導と評価の計画(全12時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1	・場面分けをし、登場人物を確かめる。 ・挿絵を活用し、物語のあらすじを捉える。 ・初発の感想を書く。(登場人物に手紙を書く。) ・音読発表会を目標に取り組むことを確認する。		○		[思・判・表] 自分なりに理由をもち、登場人物に手紙を書くことができる。(記述・発言)
2	2	・一場面の登場人物のセリフから心情を捉える活動を通して、物語の設定を確認する。	○	○		[知・技] 物語の「はじめ」が設定であることを知り、用語を理解することができる。(発言) 登場人物の心情を捉えることができる。(記述・発言) [思考・判断・表現]
	3	・二場面の登場人物の行動やセリフを確認していくことで、心情を捉える。		○		[思・判・表] 登場人物の描写やセリフに着目することで、登場人物の気持ちを想像している。(記述・発言)
	4	・三場面の登場人物のやりとりや、地の文の繰り返しについて話し合い、心情を書き出す。		○		[思・判・表] 登場人物の描写やセリフに着目し、心情を捉えることができる。(記述・発言)
5 本 時		・「がまくん」が一番うれしかったとわかるセリフを考える活動を通して、物語のクライマックスを捉える。			○	[主] 選んだクライマックスを、自分なりに本文に沿った根拠をもち、書き表すことができる。(記述・発言)
	6	・「がまくん」の心情を図解することで、気持ちが変化していることを捉える。		○		[思・判・表] 「はじめ」と「おわり」で変容していることに気づくことができる。(記述・発言)
	7	・「がまくん」の変容を一文にまとめる。		◎		[思・判・表] 図解したもの元に、自分

					の言葉で変容を一文に書き表すことができる。(記述・発言)
8	・「かえるくん」の変容を図解し、一文にまとめることで、中心人物が「がまくん」になることを理解する。	◎			[知・技] 「がまくん」が中心人物であることを、中心人物の定義を元に説明することができる。(記述・発言)
9	・登場人物に手紙を書く活動を通して、登場人物の心情に迫り、物語の主題に気づく。		◎		[主] 描写やセリフを根拠に手紙を書こうとする。(記述・発言)
3	10	・グループに分かれて、音読発表会の練習をする。		○	[主] よりよい音読発表ができるよう、心情に着目した工夫をし、練習している。(発言)
	11	・音読発表会をする。	◎		[思・判・表] 登場人物の気持ちを考えた音読発表ができる。(発言)
	12	・音読発表会でよかったところを交流する。 ・「アーノルド・ローベル」の別の作品を読み、登場人物の心情を読み取る活動を行う。 学校図書館の活用		◎	[主] 他のグループの音読発表を聞き、振り返ることで改善しようとする。(記述・発言)

10. 本時の展開(5/12時間目)

(1) 本時の目標

・「がまくん」がいちばんうれしかったとわかるセリフはどこかを考える活動を通して、「がまくん」が幸せな気持ちになつた理由がわかり、それを自分の言葉で表現することができる。

(2) 本時の評価規準

・選んだクライマックスを、自分なりの考えをもって伝え合おうとしている。

(3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5	○前時までの学習を振り返る。	・前時までの登場人物の気持ちを振り返り、どのようになつていくのかを想像させる。	
10	○「表現読み」を行う。	・登場人物の心情に合わせて、声の大きさや明るさを表現するよう指導する。	
5	○本時の課題を確認する。 がまくんが一番うれしかったとわかるセリフを考えよう。		
15	○一番うれしかったとわかるセリフを考え、話し合う。	・課題に対して、適切なセリフとそうでないセリフを用意することで、自分なりに意見をもち、考えを書くことができるようになる。	【思・判・表】 ・選んだクライマックスを、自分なりに本文に沿つた根拠をもち、書き表すことができる。
10	○本時の振り返りをする。 ○「一斉読み」を行う。	・登場人物の気持ちを考えて読むことができるようになる。	

(4) 本時における具体的な子どもの状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
・自分なりに本文に沿つた根拠をもち、書き表すことができている。	・「もし～ならば」とゆさぶることで、根拠をもつことができるようになる。